



昭和34年、旧大森町に町立大森病院として開設された当院は、平成10年4月に一般病床100床、療養病床50床として、現在地に新築移転いたしました。その後平成17年10月には、市町村合併に伴い市立大森病院と名称を変えております。

現在は、保健・医療・福祉を統合した、地域包括ケアサービスの提供に努めるため、併設の保健センター、老健おおもり、近隣の白寿園（特養）、南部シルバーエリアなどと合わせ“健康の丘おおもり”として、その中心的役割を担っています。



薬剤科は、薬剤師3名、薬剤助手2名の計5名の体制で毎日の雑多な業務をこなしています。午前中は主に無菌製剤、入院調剤、注射薬個人セット、午後から薬品管理、薬剤管理指導などを行っています。



当院入院患者様の多くは高齢で、ほとんどがトレー管理のため、定期・臨時を含め1回服用量を全てまとめてセットしています。また分包紙には、朝・昼・夕の色分けをし、食前も識別できるように工夫しています。

持参薬管理や簡易懸濁法なども行っており、“狭いながらも楽しいわが家”的雰囲気、幅広く業務をこなしています。

平成17年6月には電子カルテを導入、患者情報の共有化により業務の効率化を図ることができました。

当院の基本方針である、親切・丁寧・確実をモットーに安全で安心な医療サービスの提供に努めるべく、スタッフ一同、これからも頑張っていきたいと思っています。

大森方面にお越しの際は是非“健康の丘おおもり”にお立ち寄りください。

